

【チェック入力】学校で決められた期間(1週間)に、学校のパソコンで回答します。

【通知】検査結果は、委託業者からメールで本人に直接送付されます。同意しない限り、校長に結果を知られることはありません。

【ケア】各自が通知された内容を健康管理に役立てます。高ストレスの場合は、医師の面接指導を受けることができます。校長には、職場の集団分析結果が送られます。

労働安全衛生法の改正に伴い全道の道立学校にストレスチェック制度が導入され、7月8月に実施されます。「労働者自身のストレスへの気づき」をうながし、職場ごとの集団分析結果を「職場改善につなげ、働きやすい職場づくりをすすめる」メンタル不全を起させない職場にする」が目的です。そのために、57項目の「職業性ストレス簡易調査票」にWeb上で回答しま

「高ストレス」と判定された場合は、医師の面接指導を「職務」として受けることができます。「高ストレス」はイ

コール精神疾患ではありません。面談指導の結果、医師からの「意見書」に基づき勤務軽減などの措置が行われることがあります。また、面接指導を希望する際は、「面接指導申出書」を委託機関に送りますが、その場合は校長への資料提供に同意する必要があります。校長はプライバシーの保護はもちろんです、この制度にかかわって職員に対して不利益な取扱を行うことは禁止されています。

高教組は、働きやすい職場にするために、ストレスチェック制度を積極的に活用しようとする取り組みを提起しています。ひとつは、校長に要求書を渡し、職員がストレスチェック制度の実施方法などについて正確に理解し、安心して正しく記入できる雰囲気を作ること。また、終了後に校長に提供される各職場ごとの集団分析結果を校長一人のものにせず、衛生委員

めています。二つ目は、自身の健康と働きやすい職場にするために正確な回答をすることです。ストレスに対するケアは当然の権利です。ストレスを「個人の問題」ではなく、労働条件や職場環境などにかかわる問題としてとらえ、学校ごとの集団分析結果を学校の状況とともに衛生委員会などで議論し、職場環境の改善につなげることが大切です。

はばたき

自身の健康と働きやすい職場にするために積極的に受けましょう

ストレスチェック

道高教組札幌支部
(札幌市中央区大通西12丁目
北海道高等学校教職員センター
3階)
TEL 011-271-5875
FAX 011-271-5895

職場要求アンケートの活用は

道高教組は、労働者の生活と権利をまもる組合として、賃金改善や諸要求実現、「働きがいのある民主的な職場づくり」のために日々活動しています。各職場においては、これまでも様々な要求の実現のためにとりくみが行われてきていますが、道高教組は、この夏7月8月に、全道一斉に「全道学校職場実態・要求アンケート」にとりくみます。このアンケートは、賃金や諸手当、人事異動、時間外勤務、部活動指導などの実態や要望などを聞く設問など多岐にわたりますが、マークシ

ト形式のため気軽にとりくめるよう工夫もしていますのでご協力ください。皆さんから寄せられたアンケートをもとに、職場にある要求や教職員の働き方の改善あるいは教育条件の改善のためのとりくみに活用させていただきます。また、「道高教組の活動やとりくみ」についての評価や「道高教組のイメージ」などにつ

もっとはたらきやすい職場にしませんか？



職場要求アンケート

7月16日～8月31日 アンケートは協会のホームページからダウンロードし、印刷してご活用ください。印刷用紙は、2016年度学校職場実態・要求アンケートをダウンロードしてください。

いての設問もありますので、ぜひこの機会にみなさん方から高教組に対する思いを寄せただけければとも思っています。みんなで声かけあって、居心地の良い職場・学校づくりを一緒にすすみましょう！

8月4日～6日原水爆禁止2016年世界大会 北海道から140余名の代表団が参加

「ヒロシマ」「ナガサキ」への原爆投下から71年を迎える今年の世界大会が8月4日から広島市で始まり、今年の世界大会は、71年前核の惨禍を体験した被爆者のみなさんが「核兵器のない世界」の実現を全世界の人々に呼びかける中で開かれます。被爆者の方々の粘り強いとりくみがあって、核廃絶の流れは強まっています。国連総会では、「核兵器禁止条約」の決議に加盟国の七割を

超える国々が賛同しています。その大きな流れが、先日のオバマ米大統領の広島訪問にも繋がっています。北海道原水協のまとめでは、今年の世界大会は、総勢140余名です。特に各地域から参加する高校生が13名とこれまでにないくらいたくさん参加しています。高校生の他にも学生や中学生など若い人の参加が目立っています。道高教組札幌支部からは東陵高校から伊藤先生が参加します。「核兵器のない平和な世界を子どもたちに」の思いを一層広げる世界大会となるよう、これからも大いに運動を広げていきたいものです。

原水爆国際大会の参加に際して

札幌東陵高校分會 分會長 伊藤麻古斗

私が広島を最初に訪れたのは、遙か昔、高校生時代の修学旅行でした。その中で訪れた原爆資料館で、初めて見た原爆の被害の実態とその恐怖に慄然とした思いを抱いたことを、今も鮮明に覚えています。原爆で亡くなった多くの人たち。生き残っていても後遺症による苦しみや痛みを何年も抱えて、その後亡くなった人々。原爆被害者

に対する差別意識、など。それを知った若き心は憤りを隠せませんでした。その後、何度か広島を訪れる機会があって、そのたびに原爆資料館を訪れました。何度かの改築が行われているにもかかわらず、その展示物は、強烈な印象を絶えず与えてくれました。でも、最近の私は、広島は何度も行った、原爆資料館も何度も行

った、といつづつに広島・長崎の原爆被害は、知識だけの世界で安住して、それで満足していません。このたび、高教組札幌支部代表として派遣されることを嬉しく思っています。再び、あの私が高校生の時に感じた鮮烈な思いを抱き、反原水爆を世界に訴えることができると確信しています。

毎年6月と12月の「夏季・冬季ホーナス」期に際して、「闘争・平和カンパ」をお願いしています。多くの方々からご協力頂きました。この紙面にてお礼申し上げます。

戦争は何があってもいけないう事だと思ふ。今、憲法が変わってしまうかもしれない。はたしてでもないことだと思ふ。平和主義を無くそうとする政府の人達は、戦争は欲しいのか。皆さんと勉強して欲しい。(高校一年生感想より)

はばたき平和行動に参加しませんか？

- 8月3日～7日 北海道平和美術展 札幌市民ギャラリー
 - 6日 原爆の火を囲むつどい AM8時 琴似日登寺
 - 6日～9日 戦争と平和を考えるパネル展 オーロラコーナー
 - 15日 反戦街頭宣伝「赤紙配り」 11:00～市電「走れ平和号」12:30すすきの発車
- *その他多くの企画あり。一部のみ紹介しました。

8/6「沖縄や平和をまもる映像展」を開催

全教は、今年の12月24、25日に沖縄で「沖縄・平和を考える」1000名規模の青年教職員の集いを開きます。「未来を切り拓くプロジェクト『ゆいま〜る』」といふ。北海道からも多くの若者が参加する予定です。札幌支部では、「ゆいま〜る」のプロジェクトとして、沖縄について学び、平和と憲法について考えようとして8月6日「つどい」を開催します。

沖縄には71年前に多くの県民が犠牲となった悲惨な歴史があります。そして今なお続く戦争の傷跡と米軍基地問題、人権問題で苦しみと怒りが沸騰しています。沖縄から戦争と平和を学ぼうと沖縄見学旅行を実施している学校もあります。今回の企画は、①NHKで放送された「沖縄戦全記録」を視聴、②沖縄見学旅行の体験談、

初任層職員(在職8年未満)の勤労手当 上位区分はB区分のみ。割合は50%

人事評価制度の活用について道教委は

7/14高教組・道教組は、人事評価制度の給与への「活用」について未確定部分だった、「初任層職員(8年未満)への勤労手当の取り扱い」について、道教委交渉を行いました。

28年目の「教育全国署名」がスタート

教育予算増額・少人数学級・教職員定数増等実現のため

道教委は、上位区分は当分の間、優秀(B)の一段階のみとする(特に優秀(A)区分は行わない)、「(A)の分布率(10%)相当二分を優秀(B)の割合(30%)に換算し算出した(合計)50%程度の割合の範囲内で運用する」と回答。17年6月の勤労手当支給から運用される予定です。

7月24日、28年目の「ゆき」といいた教育を求める全国署名がスタートしました。この28年間に累計で4億4千万筆の署名を集めています。昨年は、全国で746万筆、北海道では私学もあわせて15万余筆を集め、紹介議員は、国会議員70名、道会議員29名(すべて国会派)でした。残念ながら道議会での意見書採択は実現しませんでした。多くの会派の議員や自治体首長、教育長との懇談を行い、私たちが要求している教育予算の増額が重要であることを地方の議会や教育行政に広げることができています。

高教組・道教組は、全ての教職員が一体となって行われるべき学校での教育活動を、評価者と被評価者という関係性にさせる人事評価制度に強く反対しています。しかし、各学校での混乱を避ける意味でも、すべての教職員がこの制度を正確に理解できるように、今後管理職にしっかりとした説明を求めていくことが必要です。

教育にお金を せめてOECD平均並みに

2012年、日本政府は高校・大学までの段階的な無償化を定めた国際人権A規約(13条2項b.c)についてこれまで留保していたものを撤回し、無償教育をすすめることを国際的に宣言しました。しかし、日本の教育への公的支出は、(GDP比率で)OECD加盟国中6年連続最下位(OECD平均4.7%、日本3.5%)という状況です。せめてOECD平均並みになれば、高校・大学の無償化や35人以下学級をはじめ教育条件を充実させることが可能です。お金の使い方を考えることがますます重要になっていきます。



7月23日土曜日高教組センターに24人の教採受検予定の方々が集まり、8月5〜7日に行われる二次試験対策を行いました。教育研究所の講師の方々に受検の心得から模擬授業、集団面接と指導していただき、とても充実した学習交流会になりました。アンケートの結果を見ると、概ね満足してもらえたようです。皆さんやる気と元気をもち帰って二次に臨むことができそうです。ただ、職場の同僚に案内されて来た方が少なかったのは気になりました。また、期限付の方を中心に雇用や人間関係、保護者対応などの不安があるとの答えもありました。現場で私たちが彼らの不安に気づき、耳を傾け、明日を担う世代を育てて行きましょう。(臨教対策委員会 桑原岳夫)

第二回教員採用試験対策学習交流会

7月23日土曜日高教組センターに24人の教採受検予定の方々が集まり、8月5〜7日に行われる二次試験対策を行いました。教育研究所の講師の方々に受検の心得から模擬授業、集団面接と指導していただき、とても充実した学習交流会になりました。アンケートの結果を見ると、概ね満足してもらえたようです。皆さんやる気と元気をもち帰って二次に臨むことができそうです。ただ、職場の同僚に案内されて来た方が少なかったのは気になりました。また、期限付の方を中心に雇用や人間関係、保護者対応などの不安があるとの答えもありました。現場で私たちが彼らの不安に気づき、耳を傾け、明日を担う世代を育てて行きましょう。(臨教対策委員会 桑原岳夫)

「署名宣伝行動」

7/24、「教育署名スタート集会」終了後、参加した方々約30名が大通西3丁目「署名宣伝行動」をおよそ45分程とりました。乳母車に子どもを乗せた若い夫婦の方はじめ「少人数学級は大切ね」といいながら署名に呼んでくれる方も多くいました。短時間のとりくみにもかかわらず、チラシ配布とあわせて、115筆の署名が集まりました。



級をはじめ教育条件を充実させることが可能です。お金の使い方を考えることがますます重要になっていきます。教育は一人一人が成長・発達するための権利です。教育にお金をかけることができる国に日本が向かうように運動を強めましょう!

18歳選挙権。主権者教育を考える

「教職員の政治活動と政治教育を区別する」

シリーズ4回目、今回が最終回となります。これまで、①文科省「新通知」「Q&A」の問題点と3つの争点、②その中の最大の争点としての「高校生の政治活動の自由」「基本的人権をどう保障するのか」、③教育における「政治的中立性の確保」について考えてきました。最終回は、「教職員の政治活動と政治教育」に関わって考えていきます。

「一方的な教化を狙った教育政策」への手厳しい批判を

3つめの課題として、私たち教職員がひとりの市民として行う政治的活動をどう考えればいいのかという課題があります。

ここで大事なことは、あくまでも私たち教職員の政治活動は「地位利用」にあたらないうよう「規制・制限」されているのであって、「禁止」されているのではありません。よく管理職が「禁止されている」という言葉を使いますが、そのときはきちんと正しておくことが大事です。ここでは、18歳選挙権の実現にあたってあらためて考えるべき課題について述べることにします。

それは、教職員の政治活動と政治教育をあらためてしっかりと区別するということです。それを混同して議論すると誤

解や萎縮をうむことになりません。教職員がひとりの国民として政治的主張をもち、そのことに誠実に政治活動に参加することは憲法が保障する高度な人権であり、民主主義社会をつくるうえで健全なことです。そして、そういう姿勢をもって見れば、高校生活から見ても信頼できる大人のひとりのタイプでもあるでしょう。「政治」に関係しても危ないだけで得にならない」と平気という教師にはなりたくありません。

秋は教研にご参加を!

札幌支部教育研究集会は
9月4日(日)13:00~に決定
全体講演は川村雅則(北海学園大学教授)さん

講演テーマ 「教え子たちが生きる世界」
~若者たちの雇用と労働の現実~

私たちが社会に送り出している教え子たちは、今どんな環境で生き、働いているのでしょうか? 私たちはそのことを意識した教育を行っているのでしょうか?

そんな問題意識から、労働経済学の立場から若者の雇用と労働の問題に積極的にとりくんでいる北海学園大学の川村先生に講演をお願いしました。組合だからこそ学べる内容です。(詳細は、今後お知らせします)

集まって語り合ひましょう

さっぽろフェスタは、札幌にある子育て教育に関わる10数団体が参加してつくるフェスタ実行委員会によって毎年開催されているもので、今年で16年目となります。今年のテーマは「笑顔が輝く子どもと大人の未来」つながり広げて「一人ひとりが大切にされる子育て社会」です。

10月10日(月・祝)午前の部全体講演では、北九州を中心に、ホームレス支援・若者支援を行っている奥田知志さん(キリスト教会牧師・若者支援を行っている奥田知親)の講演を行います。(詳細は今後お知らせします)ご参加ください。